環境マネジメント

Environmental Management

環境指針

三菱ふそうは「All for you」という経営理念の下、企業倫理や品質などを始め、企業活動全般において、「すべては大切なお客様のために」を念頭に置いています。
それと連動する状況で、環境については「環境指針」に基本的な方針をまとめています。その中で環境保全を最重要課題の一つと認識し、関連会社、取引先の協力を得て継続的に環境保全に取り組むことにしています。

三菱ふそう環境指針

基本指針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し

（1）グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全ての企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組みます。

（2）社会を構成する良き企業市民として、積極的に地域や社会の環境保全活動に取り組みます。

行動基準

（1）製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。

＜重点取り組み＞

●温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。
●環境汚染物質の排出を抑制し、汚染の防止に努める。
●省資源、リサイクルを推進し、資源の有効活用と廃棄物の低減に努める。

（2）環境マネジメントの充実に努め、継続的に環境改善に取り組む。

（3）環境規制、協定を遵守し、自主管理目標を設定して環境保全に取り組む。

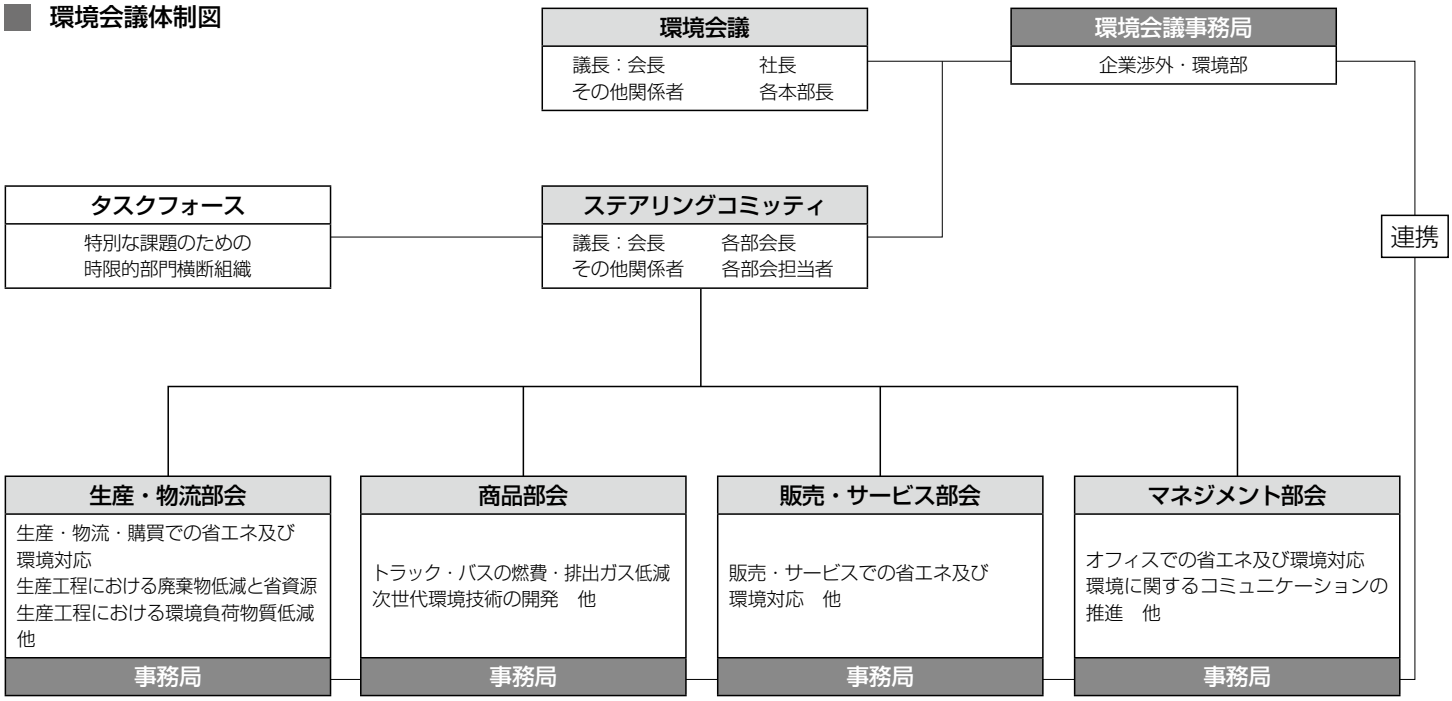
（4）国内外の関連会社や取引先などと協力し、環境保全に取り組む。

（5）環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解に努める。

環境会議

三菱ふそうでは会長を議長とする「環境会議」を組織、運営し、全社的な環境保全活動を推進しています。環境会議の下にステアリングコミッティを組織し、その傘下に「商品部会」「生産・物流部会」「販売・サービス部会」「マネジメント部会」の４部会を配置しています。ステアリングコミッティでは、各部会長をはじめ、各部会事務局のメンバーも交え、さまざまな環境に関わる事項への対応を行うため、議論、検討の頻度を高め、情報の共有化など、一層のコミュニケーションの充実を図ると共に、フレキシブル且つタイムリーな対応を可能としています。
これからも常に社会の動き、ニーズに遅れることなく、企業活動全体でスムーズな環境保全を進められるよう、組織の充実を図っていきます。

環境会議体制図



新環境中期行動計画

2011年に三菱ふそうは、新しい環境中期行動計画を策定し、「省エネルギー・地球温暖化への取り組み」、「排出ガス・大気環境保全への取り組み」など6つの観点から具体的な目標を掲げています。
16項目の目標が設定され、それに沿って、毎年具体的な年間目標を策定し、取り組みを推進していきます。

三菱ふそうは、その進捗状況及び取り組み結果を毎年この報告書で社会に公表していきます。
本中期行動計画及び2012年の年間目標の内容は下記の通りです。

中期行動計画項目	中期行動計画内容	2012年（度）行動計画内容
（1）省エネルギー・地球温暖化への取り組み		
温室効果ガス（CO_2）排出量の低減	企業活動における温室効果ガス（CO_2）の排出原単位を全社レベルで対2005年比で10%低減	各部門における省エネルギー活動の推進 省エネ機器の導入および更新 継続的な構内生産物流プロセスの改善
燃費の良い自動車の販売を推進し、 各地域でのトップクラスの燃費性能を目指す	国内：2015年燃費基準の達成 海外：欧州・米国における次期CO_2規制への対応	低燃費商用車の開発及び市場導入を推進
次世代車の開発および普及促進	HEV・EV車を中心に、次世代車開発･普及の促進を図る	HEVトラックの開発及び市場導入を推進
非CO_2の温室効果ガス低減のため、 新冷媒エアコンの開発促進	新代替フロン（HFO-1234yf）への対応を検討	新冷媒エアコンシステム開発継続
自動車使用時の温室効果ガスの低減を図る	低燃費講習会の実施拡大	低燃費講習会の実施拡大に向けた、 トレーナー養成教育実施
（2）排出ガス・大気環境保全への取り組み		
大気環境改善に資する自動車からの 排出ガス低減を推進する	国内・海外の排出ガス規制適合車の タイムリーな市場導入	国内・海外の排出ガス規制適合車の タイムリーな市場導入
（3）化学物質・有害物質への取り組み		
製品に含まれる化学物質の低減に向けて 活動を実施する	製品に含まれる化学物質管理のため、 IMDS登録を推進	製品に含まれる化学物質の把握推進
（4）リサイクル・廃棄物削減への取り組み		
資源の有効活用のため、生産・販売・サービス活動における排出物排出量の削減推進	排出物排出量を対2010年比で5%低減	排出物低減活動の推進
資源の有効活用を目指したリサイクル設計の推進	2015年にリサイクル実効率95%の達成	リサイクル実効率の把握推進
（5）騒音・その他公害への取り組み		
地域社会との共生	地域環境に配慮した施策を推進し、緑の見える工場を目指す	工場外周の整備 地域住民も参加できるイベントの実施
騒音が低く、環境に優しい自動車の開発と市場投入	国内・海外の騒音規制適合車のタイムリーな市場導入	国内・海外の騒音規制適合車の タイムリーな市場導入
生物多様性を考慮した活動の計画・実施	喜連川研究所内のため池における悪性微生物の 異常発生等を防ぎ、生態系の維持に努める	喜連川研究所における生態系維持のための 取り組み推進
（6）環境マネージメント		
社員の環境意識向上を図る	社員教育の実施及び工場構外清掃活動の実施	社員への環境教育の実施 工場周辺の清掃活動の実施 工場構内の環境パトロールの実施
環境情報の開示とコミュニケーション活動の推進を図る	環境・社会報告書の発行時に情報掲載を実施 （ホームページでの公開ほか）	環境・社会報告書の発行 環境情報の随時公開
環境教育活動の充実と推進を図る	環境活動に必要な法的知識の社員向けトレーニングを行う（新入社員･階層別教育への展開）	社員向けトレーニングの教育計画立案
社員へ当社の環境活動の理解を深める	社員ポータル/FUSO TIMESへの活動紹介	社内Web・社内広報誌において、 社内の環境活動を紹介（年3回）

ISO14001の取り組み

ISO14001認証取得

三菱ふそうでは、環境取り組みの透明性、信頼性の確保を目的に、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を下表に示すようにまず生産本部（製作所）において取得しました。
2002年12月には、生産本部の認証更新にあわせて、「開発・設計業務に関する環境マネジメントシステム」についても認証を取得しました。

ISO14001認証取得状況

三菱ふそう	生産本部	1999年12月
	開発部門に拡大	2002年12月
国内関連会社	三菱ふそうバス製造㈱	2003年12月
海外関連会社	MFTE（ポルトガル）	2002年 2月

環境監査

環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認し、更なる改善を図るため、部門毎に年1回の内部監査と第三者機関による年1回の外部監査を実施しています。
内部監査では、資格認定制度により社内外の教育を受けて認定された内部監査員（社員）が環境関連項目を確認します。そこで指摘を受けた事項については、最高責任者のチェック＆レビューを受け、的確な是正措置が実施されます。また、優れた取り組みについては、全部門へ広く展開される仕組みとなっています。
2011年の外部監査では、観察事項8件（不適合0件）の指摘を受けました。全体としては環境マネジメントが適正に運用・維持されているとの評価をいただいています。指摘事項については直ちにシステムの是正を行うとともに、引き続きよりレベルの高いシステムの運用を目指し努力していきます。
また、2008年11月にはダイムラートラックグループの一員としてダイムラー社による環境監査を受けました。
同監査で指摘を受けた課題について、現在対策を実施中であり、今後は更にレベルアップした工場環境の実現を目指しています。

緊急時対応、環境に関する事故など

緊急時対応

工場の生産活動においては、安全操業と環境負荷低減のために、適正な運転基準・作業標準を定めて、安定した操業の維持管理に努めています。地震などの天災や日常の作業の中で予想される緊急事態を想定し、最善の方法で対処できるように、「緊急時の対応方法」を定めて定期的に対応訓練を実施しています。

事故

2011年は、環境に関連した事故はありませんでした。

苦情

2011年には、地域の方々から、川崎工場内の騒音・臭気に関するご指摘を9件、また工場周囲の落葉などに関するご指摘を1件受けました。これらに対して、原因究明や社員への指導に努めるとともに、工場内のパトロール等によるモニタリングを実施しています。

訴訟

2011年は、環境に関する訴訟はありませんでした。

環境に関するリコール等

2011年は、総数22件のリコールを届け出ました。環境に関するものとして、大型トラックにおける排出ガス発散防止装置（尿素水ドージングノズル）に関する不具合（届出番号：2728）及びエンジンECUのプログラムデータに関する不具合（届出番号：2778）がありました。詳細については、三菱ふそうホームページの「リコール情報」欄をご参照下さい。
（http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/recall/index.html）

環境会計／環境コミュニケーション

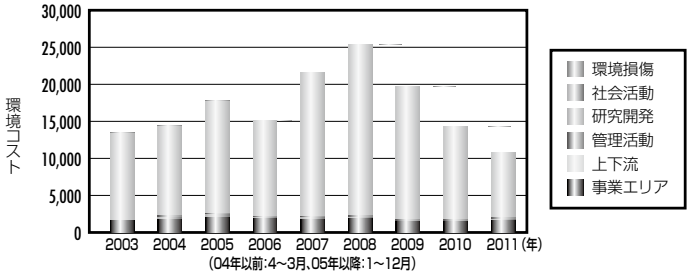
三菱ふそうの環境会計は環境省の環境会計ガイドライン2005年版を参考にしています。当社は決算期間に合わせ、環境会計についても1～12月を会計期間としています。

(1) 環境保全コスト※1

2011年の環境コストの総額は約108億円で、売上げ高の約2.0%でした。前年に比べ約35億円減少しましたが、その殆どは、研究開発関連の環境コストが減少したことによるものです。

環境保全コスト　（単位：百万円）

分　類		2010年	2011年	11年対10年増減
(1) 事業エリア内コスト		1,413	1,576	163
内訳	①公害防止コスト	273	442	169
	②地球環境保全コスト	901	903	2
	③資源循環コスト	239	231	−8
(2) 上・下流コスト		83	115	32
(3) 管理活動コスト		254	252	−2
(4) 研究開発コスト		12,514	8,814	−3,700
(5) 社会活動コスト		24	23	−1
(6) 環境損傷対応コスト		1	1	0
合　計		14,289	10,781	−3,508



(2) 環境保全効果※2

「総エネルギー投入量」、「生産でのCO_2排出量」、「PRTR対象物質投入量」が増えたのは、前年より生産が回復したためです。その他の項目に関しては、低減効果が得られました。

環境保全効果

項　目（単位）	2010年	2011年	環境保全効果
(1) 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果			
総エネルギー投入量（10^{12}J）	1,488	1,578	−90
PRTR対象物質投入量（t）	273	338	−65
水資源投入量（千m^3）	479	479	0
(2) 事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果			
生産でのCO_2排出量（千t）	70.1	73.0	−2.9
完成車輸送時のCO_2排出量（t）	3,135	2,301	834
PRTR対象物質排出量・移動量※3（t）	92	69	23
廃棄物発生量（t）	19,396	19,272	124
廃棄物最終処分量（t）	1.2	1.1	0.1

(3) 環境保全対策に伴う経済効果※4

例年同様「廃棄物のリサイクルに伴う収益」が得られました。「廃棄物処理費用」は、生産量の回復により若干増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果　（単位：百万円）

分　類	項　目	経済効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	384
費用節減※5	エネルギー費用の削減	171
	廃棄物処理費用の削減	−10
	用水購入費用の削減	12
合　計		557

環境コミュニケーション

三菱ふそうは、インターネットホームページ、冊子、各種行事を通じて、環境取り組みに関する情報を皆様に提供しています。当社のホームページでは、過去の環境報告書、車種別環境情報、低公害車開発への取り組みなど、環境に関する様々な情報を逐次掲載しています。また、お客様への情報提供として、車両の環境情報をカタログにも掲載しています。

（「環境への取り組み」サイト
http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/index.html）

環境・自動車に関する行事・イベントへの出展

三菱ふそうは、各地で開催される行事・イベントなどに参加しています。2011年は、2月に開催された「川崎市国際環境技術展2011」に出展しました。

また、2011年12月に一般公開された、第42回東京モーターショーにおいても、初披露となる新型「キャンター エコ ハイブリッド」をはじめとした環境対応車及び環境技術の展示を行い、多くの方々に当社の商品、取り組みについて知っていただきました。

川崎市国際環境技術展2011

第42回 東京モーターショー2011

※1： 環境保全コスト
(1) 各製作所における省エネ、省資源、廃棄物処理などの環境対策に係るコスト
(2) 使用済み部品の回収などのコスト
(3) ISO14001、社員への環境教育などのコスト
(4) 燃費低減、排出ガス低減などの研究開発に係るコスト
(5) 環境関連の外部団体への寄付金などのコスト
(6) 国等への賦課金などのコスト

※2： 環境保全効果　環境負荷の発生の防止、制御または回避などの効果を物理量で表したもの。
※3： 「移動量」からは廃棄物を除く。
※4： 環境保全対策に伴う経済効果　環境保全対策を進めた結果、企業等の利益に貢献した効果を貨幣単位で表したもの。
※5： 対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出した。